

～人権が尊重されるまちをつくろう～

～身近な生活の中から学ぼう～

2025.10.21

第 **87** 号

人権・同和教育だより 丹波篠山

発行

丹波篠山市

人権・同和教育研究協議会

TEL・FAX 079-593-1260

http://t-s-doukyou-hr.jp

〒669-2734 丹波篠山市宮田240

丹波篠山市役所 西紀支所3F

年2回発行 6・10月

2025年**12月13**日(土)13:00～16:00
会場：丹波篠山市立田園交響ホール

第23回 人権フェスタ in 丹波篠山

開会行事、あいさつポスター・人権作文受賞者表彰及び作文発表 等 13:00～



第27回 丹波篠山市人権・同和教育研究大会

主催：丹波篠山市人権・同和教育研究協議会、丹波篠山市、丹波篠山市教育委員会

テーマ：だれもの人権が尊重され、自分らしく生き生きとくらせるまちづくり

大会趣旨

丹波篠山市人権・同和教育研究協議会は、発足以来「差別の現実から深く学ぶ」ことを基本理念としてきました。近年、インターネット上の悪意ある様々な書き込みや無責任なフェイク情報の拡散により多くの人権課題が生じています。ネット社会は利用環境の急速な拡大により、誰もが、いつでも、どこにいても、容易に情報を入手・発信できる環境であり、個人に対する誹謗中傷や偏見、プライバシーの侵害等、悪意のある書き込みがあふれています。子どもたちでさえも意図せずに加害者や被害者として巻き込まれる等、ネット社会は深刻な人権問題となっています。今大会は、部落差別とネット人権侵害について学び、あらゆる差別解消をめざし、だれもの人権が尊重され、自分らしく生き生きとくらせるまちづくりの実現につなげたいと思います。

基調講演
14:00～15:50



写真Masaru Goto/Reminders Project

〔演題〕 ネット上の問題から考える人権・部落問題の基礎基本

〔講師〕 松村 元樹さん (公益財団法人反差別・人権研究所みえ常務理事兼事務局長)

あなたも丹波篠山市人権・同和教育研究大会に参加してみませんか？

※どなたでも参加できます。手話通訳・要約筆記あります。託児できます (要予約)。

※気象状況等により、変更・中止になる場合があります。その場合は市同教ホームページでもお知らせいたします。
12月12日(金)までは、電話で問い合わせいただくこともできます。(TEL：079-593-1260 月・火・木・金)

「人権・同和教育セミナー2025」より

差別解消のためには、だれもが人権課題について正しく理解すること、自分事として捉えることが大切です。市同教では、部落差別解消があらゆる人権課題を解消することに気づくため、一年間にわたるセミナーを企画しています。本年度も部落問題をはじめ、様々な人権課題について学習しています。セミナーの様子と参加者の感想を紹介します。

第1回

8月2日(土)開催

震災と人権ー 阪神・淡路大震災30年に考える



講師 増島 智子さん (被災地NGO協働センター)

阪神・淡路大震災のボランティア活動をきっかけに被災地支援活動に取り組んできた増島智子さんに、阪神・淡路大震災から30年にあたっての思い、また、能登地震の被災地の状況や支援活動の中で気づいた課題についてお話をいただいた。被災地にボランティアとして参加し、経験されたリアリティーあふれる話は説得力があった。

また、「まけないぞう (象の形をした手拭きタオル) の製作」や、お茶会、勉強会など、仕事づくり、コミュニティづくり、生きがいづくりが心のケアにつながり、負の記憶が正の記憶になっていく。被災している人をみると、やっぱり社会的に弱い立場(高齢者・障がい者、女性、子ども、外国人等)の人が多かった。これはすべての人権課題に共通する問題でもある。

〔参加者の声〕

- ※被災地支援の活動状況を知るだけでなく、その現状から見えてくる人権の課題を感じることができました。安心安全な暮らしの実現に向けてやるべきことは大きく、これからも向き合っていく必要はないと思いました。
- ※災害等の混乱時には特に社会的弱者(高齢者、障がい者、子ども、妊婦、女性、外国人など)の人権に配慮した行動が求められることを再認識しました。助け合い、お互いの気持ちを日々の生活の中でも大切にしたいと思いました。
- ※「話を聴く」のもボランティア。その通りだと思いました。「ハチドリの一ひしずく (小さな事でも、いま自分にできる事を積み重ねていく)」です。

第2回

8月30日(土)開催

変容する現在社会の部落差別ー『差別する人の研究』からその次へ



講師 阿久澤 麻理子さん (大阪公立大学教授)

多くのデータをもとに、現代社会がかかえる部落差別の構造をお話された。直接、人を差別することは、現代社会において見えにくくなっているが、土地に対しての差別は根強く残っている。その背景には、被差別部落出身でなくとも、その出身土地を購入したり、住んだりするなどの「見なし差別」がある。またその土地を有する人と関わったことを理由に受ける「関連差別」も影響している。

見えにくい差別はインターネットの匿名性の中で顕在化している。「知らない」・「無関心」からくる無自覚な差別、悪意のない差別が社会の変容とともに増えている。それは差別が社会システムに組み込まれているという事を意味する。

〔参加者の声〕

- ※「人に対する差別」「土地に対する差別」で意識が違っていると知り、勉強になりました。また、なぜ「土地」を避けるのか差別する側の仕組みについて理解できたのも良い学びになりました。
- ※「自分は違う」「関係ない」と考える、発言する無自覚な差別は自身の中にもあるかも知れないと気づく事ができました。
- ※学校教育で、先生が自信を持って指導することができるように、人権教育の中でも何より先に大切な部落差別問題について、歴史を学ぶだけにならないように研修を進めていく必要があると強く思いました。

※第3回セミナー(11月8日)は「西紀老人福祉センター」で行います。 ※第4回セミナー(1月24日)は「丹南健康福祉センター」で行います。

専門部会研修会 セミナー など



*地域部会研修会

第1回～第4回の人権・同和教育セミナーから一つの研修会を選んで参加(第1～2回は終了)

*学校部会研修会

10月14日(火)15:00～16:30
内容:「今こそ語り伝えたい 証言から知る戦時中の暮らしと体験」
講師:市同教 啓発推進委員(人権の歴史調査研究班)の発表
上田和夫さんの戦争体験談
場所:四季の森生涯学習センター 東館 大会議室

*保・幼部会研修会

10月28日(火)18:30～20:00
内容:「そうじゃないかもしれない…」～耳を凝らし目を澄ませば～
講師:八尾 田江 さん
(一般社団法人am*am代表、おひさまにここクリニック)
場所:丹南健康福祉センター 研修室

*企業部会研修会

10月30日(木)18:30～20:00
内容:「ビジネスと人権」
講師:長谷 友美 さん(兵庫働き方改革推進支援センター)
場所:丹波篠山市民センター 多目的ホール
※2月5日(木)開催の第2回男女共同参画研修会(女性活躍のための職場づくり)も企業部会として案内します。

*第3回人権・同和教育セミナー

11月8日(土)14:00～16:00
内容:「“自分らしく生きて”って言うけれど…」
～適切な支援について日々思うこと～
講師:八尾 田江 さん
(一般社団法人am*am代表、おひさまにここクリニック)
場所:西紀老人福祉センター 健康教育ホール

*障がい者部会啓発チラシ配布

「障害者週間 12月3日～9日」
12月4日(木)に市内8カ所にて啓発チラシ配布。
※ホームページにて配布場所・配布時間を告知します。
12月14日(日)市民センターまつりにても啓発チラシ配布。

*PTA部会研修会

1月18日(日)13:30～15:00
内容:「SNS時代におけるリアルな親子のコミュニケーション」(仮)
講師:原 清治 さん(佛教大学副学長)
場所:四季の森生涯学習センター 東館 大会議室

*第4回人権・同和教育セミナー

1月24日(土)14:00～16:00
内容:「わたしからはじまる同和問題」
～部落差別の現実に関ができることは～
講師:柴原 浩嗣 さん
(一般財団法人大阪府人権協会 業務執行理事)
場所:丹南健康福祉センター 研修室

*女性の人権と性の多様性部会研修会

※第1回目は7月4日(金)に終了しました。
※第2回目は2月5日(木)予定
(いずれも男女共同参画センター主催事業)

*宗教部会研修会

3月上旬予定

*高齢者部会研修会

市内各老人クラブ単位で実施します。

※上記の研修会等は気象状況等により中止や変更
場合があります。
※セミナーおよび研修会の様子は、市同教ホーム
ページに掲載いたしますのでご覧ください。 市同教ホームページ



みんなの人権を考える映画会『港に灯がともる』より



©Minato Studio 2025

今年は阪神・淡路大震災から30年の節目であり、映画『港に灯がともる』を上映しました。
この映画は、震災を経験した親をもつ震災を知らない世代や、在日コリアン家族の苦しみや葛藤を描いた物語です。
映画監督の安達もじりさんは、舞台挨拶等で、「30年という時の流れの中で、心にしんどさを抱えた女性が、ちょっとだけ踏ん張って半歩前に進んだよ、という話です。この物語を観てくださった人が、ちょっとだけ、ちょっとだけでいいので、やさしくなれたら、やさしい世の中になったらいいなと思っています」というメッセージを発信されています。この映画をとおして「震災と人権」、「多文化共生」また「心のケア」について学ぶことができました。

参加者の声

- 震災、あの時は毎日生きることで精一杯でした。「生きる、家族、つながる…」考え続けます。
- 生きている人、それぞれに背負っているしんどさがあり、一人一人をしっかり見つめていくことの大切さを知らされました。
- いろいろ考えさせられました。知らないことも多くありました。これからも機会を見つけて、まず、知っていきたいです。

暮らしの中から

逆転の発想

異常な暑さが続いた夏、大阪万博では毎日10万人以上の人で賑わっていました。混雑するお盆の8月13日に大阪メトロ中央線の運転見合わせによる鉄道の遅延が発生し、万博会場の最寄り駅で多くの来場者が長時間滞留するということがありました。

来場者はどうすればいいかわからない不安と、いつまでここにいる必要があるのかという思いで夜を過ごさなければいけない状況の中、「開けましょう」という声がスタッフから自発的に上がりました。オランダ館では深夜にもかかわらず営業を続け、人気キャラクター「ミッフィー」との撮影スポットなどを設けました。ポルトガル館では施設の一部を開放し、ビールやワイン、ソフトドリンクを販売。陽気な音楽を流し、来場者とダンスを披露し、会場の雰囲気をも明るく保つよう努めるなど、海外パビリオンや会場施設の開放、軽食・水・飲料・電源タップの提供をしました。

また、会場では来場者が逆にスタッフに水を差し入れたりして、「優しい世界」だと感じたという方や、パビリオンのスタッフから、「またゆっくり遊びに来てね～」と言われて感動したという方がSNSで発信されています。

真夏に一晚を過ごさなければいけないような状況が発生したということはあってはいけないことですが、「会場内に取り残された」というネガティブな雰囲気ではなく、その場を楽しむ、または「万博でオールナイト」という状況を逆転の発想で楽しむことができ、貴重な思い出になった方もいるのではないのでしょうか。

困っている人のために何かをしたいという思いは、日本人だけでなく世界共通なんだなあと改めて感じました。世界中全ての人がこういう優しい思いをもっていれば、いま起きている紛争や争いはなくなるのではないかと思います。



Aさんとの出会い

8月18日から2泊3日で、女性2人のホームステイを受け入れました。2人は公益財団法人PHD協会の研修生です。この協会はアジア・南太平洋の青年を研修生として日本に招き、1年間農業、保健衛生、地域組織化等の研修を行い、帰国後もフォローアップを行うことを通じて、草の根の人々による地域づくりと生活向上に協力しています。

Aさんはネパール出身の23歳。協会で今回初めて受け入れた聴覚障害のある研修生でした。生まれつき聴覚に障害があり、地元の学校では十分なサポートがなく、学びから取り残される状態が続きました。14歳のときカトマンズのろう学校に転校し、手話を学ぶことで世界が開けたそうです。さらに、高校時代にはカトマンズに聴覚障害者のための柔道場が開設され、Aさんは初代キャプテンになりました。なぜ柔道なんだろうと疑問でしたが、ネパールでは聴覚に障害がある女性が性被害に遭うことが多い背景から、身を守る手段として柔道を学ぶ人たちが多くいます。丹南中学校で2日間柔道の研修をされました。

またネパールの聴覚障害者は働き口を見つけるのが非常に難しい状況です。Aさんはカトマンズで洋裁の基礎を学び、日本ではより応用的な研修を受けたいと望んでいます。その技術をネパールで聴覚障害者に共有するとともに、自らも服を作って売ってみたいと考えています。

短期間でしたが、耳の不自由さを全然感じさせないほど、いつも笑顔で明るくて前向きなAさんの姿勢を素晴らしいと感じました。また聞こえないことを補うツールをたくさん持っていることに驚かされました。まず手話。私は手話ができませんが、笑顔で動かしている指を見ていると、なんだか少し理解できるような気がしてきます。それからスマホやパソコンの翻訳アプリを使っの会話。ちょうど遊びに来ていた孫と実際にパソコンの前で会話をしているのを見てびっくりしました。Aさんに出会って、私も毎日の生活を見直し、今の自分にできることを考えていこうと前向きな気持ちになりました。



編集後記

今年は戦後80年。太平洋戦争を体験した方は少なくなり、その時の様子を知る機会は減ってきています。

市同教では「戦争は最大の人権侵害」とし、啓発推進委員(人権の歴史調査研究班)が、篠山の戦争遺跡や聞き取り調査などをし、研究をすすめています。この研究をもとに、戦争の悲惨さや平和の尊さを後世に伝える事ができるように学習の機会を準備しています。講演をご希望の団体、グループなど、市同教までお問い合わせください。

住民会費・企業会費の納入に感謝いたします

自治会をはじめ、市民や企業の皆様のご尽力により、9月末現在3,206,980円の会費を納めていただいております。この貴重な会費は、私たち丹波篠山市で生活するすべての人たちが、互いの人権を尊重し、あたたかく優しい気持ちで暮らしていくための啓発・学習活動に使わせていただいております。今後とも丹波篠山市同教事業にご理解、ご支援いただきますようお願いいたします。